

鹿児島県感染症情報

2023年 第11週報 (3月13日~3月19日)

発行：鹿児島県環境保健センター（内容に関するお問い合わせ：健康増進課感染症保健係）

※ 感染症のホームページアドレス <http://www.pref.kagoshima.jp/kenko-fukushi/kenko-iryu/kansen/index.html>

保健所、地方衛生研究所が健康危機への対応と同時に、健康危機発生時においても健康づくり、地域保健対策の拠点として機能が発揮できるよう、平時のうちから有事に備え機能体制強化を図ることを目的に関係法令が改正されます。

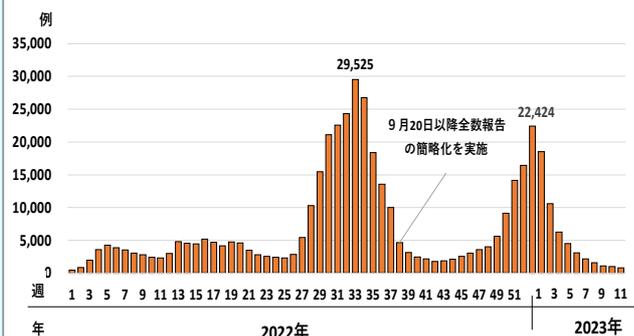
- ・IHEAT(アイ・ヒート)による保健所の体制強化 ※ 保健所及び地方衛生研究所の主な改正のポイントを紹介
学会・関係団体等の協力により、保健師、医師、看護師等を約4,500人以上確保し、感染症のパンデミックにより保健所業務が逼迫した際、保健師等の専門家が保健所業務を支援する仕組み(IHEAT)を法的に整備し、体制強化します。
- ・地方衛生研究所の機能の法定化(調査研究・試験検査の体制整備)
今後の新興・再興感染症のまん延等の健康危機に的確に対処できるよう、全国の保健所設置自治体に対し、専門的な知識・技術を必要とする試験検査・調査研究等の業務を行うために必要な体制整備等を講ずる規定を設けます。

県内の新型コロナウイルス感染症は、3月19日時点での累積届出数が**440,810例**となりました。下図には、本県における新型コロナウイルス感染症の2022年第1週から2023年第11週までの週別届出状況を示しています。

2022年第1週以降、週別の届出で最も多かったのは、2022年第33週(8/15~8/21)の29,525例で、次いで2023年第1週(1/2~1/8)の22,424例でした。

なお、日別では2023年1月5日の5,209例が最も多く、次いで2022年8月18日の4,948例でした。

本県は2022年9月20日以降、全数報告の簡略化を実施していますが、2023年第11週までのみなし陽性者数は883例、コロナ・フォローアップセンターでの確定者10,455例です。



第11週の定点報告疾患の報告状況を見ると、県内のインフルエンザの定点当たりの報告数は前週と比べると減少しました。また、感染性胃腸炎の定点当たりの報告数を見ると、流行発生警報域は鹿屋が9週連続で、今週から鹿児島市が入ってきました。加世田、始良でも10.00を超えていますので、今しばらくは動向に注意する必要があります。

☆一～五類感染症(全数報告疾患)の発生状況

一類感染症	発生報告なし
二類感染症	結核4例(肺結核2例, 無症状病原体保有者2例)
三類感染症	発生報告なし
四類感染症	レジオネラ症1例 追加つつが虫病1例(第10週)
五類感染症	水痘1例, 侵襲性肺炎球菌感染症1例, 梅毒4例 追加侵襲性肺炎球菌感染症1例(第10週)
新型コロナウイルス等感染症	新型コロナウイルス感染症833例 (うち, みなし陽性者なし, コロナ・フォローアップセンターでの確定者43例を含む)

☆定点報告疾患の発生状況

- ・今週の定点医療機関は、インフルエンザ定点**92**、小児科定点**54**です。
- ・第11週の定点把握対象疾患の総報告数は1,038人で、前週より106人少ない報告数でした(4頁参照)。
- ・流行発生警報の基準値(開始基準値及び終息基準値)以上の保健所
【感染性胃腸炎(開始20.0, 終息12.0)】：鹿児島市(21.08), 鹿屋(17.60)
- ・流行発生注意報の基準値以上の保健所
該当なし

※ 週報発行後、医療機関、保健所から追加、訂正報告があり、全数・定点の数値が変更する場合があります。

☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患の発生状況）

(1) 感染性胃腸炎

第11週の感染性胃腸炎の報告数は562人で、前週より17人少なく、定点当たりの報告数は10.41であった。

年齢別では、1歳（88人）、2歳（76人）、4歳（68人）の順に多かった。保健所別の定点当たり報告数は、鹿児島市保健所（21.08）、鹿屋保健所（17.60）、加世田保健所（17.00）の順に多い。

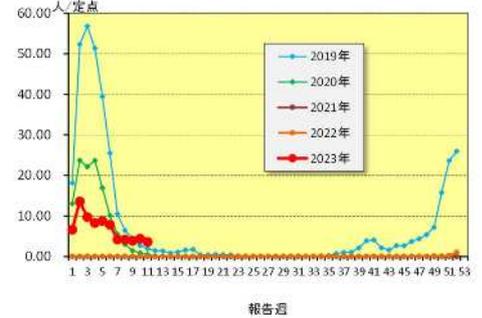


(2) インフルエンザ

第11週のインフルエンザの報告数は332人で、前週より75人少なく、定点当たりの報告数は3.61であった。

年齢別では、10～14歳（86人）、6歳（40人）、7歳（28人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり報告数は、出水保健所（8.40）、鹿児島市保健所（8.26）、伊集院保健所（4.00）の順に多い。



(3) RSウイルス感染症

第11週のRSウイルス感染症の報告数は67人で、前週より1人少なく、定点当たりの報告数は1.24であった。

年齢別では、1歳（26人）、0～5ヶ月（15人）、2歳（10人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり報告数は、川薩保健所（2.25）、鹿児島市保健所（2.15）、名瀬保健所（2.00）の順に多い。



【保健所・地方衛生研究所の健康危機対策に関する情報】

「地域保健対策の推進に関する基本的な指針」の改正について

改正の経緯・趣旨

- 新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえ、令和4年臨時国会において、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律等の一部を改正する法律」（令和4年法律第96号）が成立し、
 - ・ 感染症法においては、予防計画の記載事項の充実や都道府県と保健所設置市・特別区等による連携協議会の創設などが行われるとともに、
 - ・ 地域保健法においては、保健所業務を支援するIHEATや専門的な調査研究、試験検査等のための体制（地方衛生研究所等）の整備等が法定化されたところ。
- これらの改正を踏まえて、「地域保健対策の推進に関する基本的な指針」（平成6年厚生省告示第374号）の記載を見直すもの。

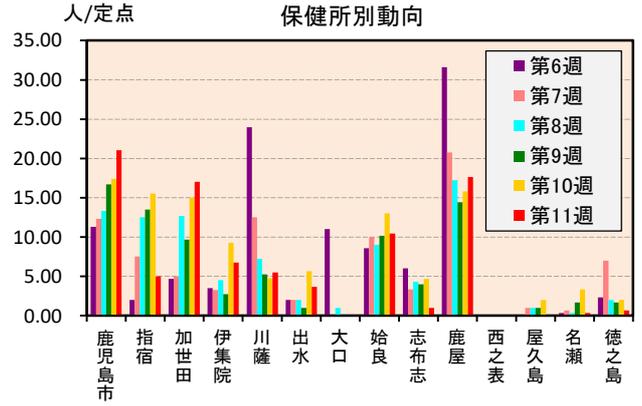
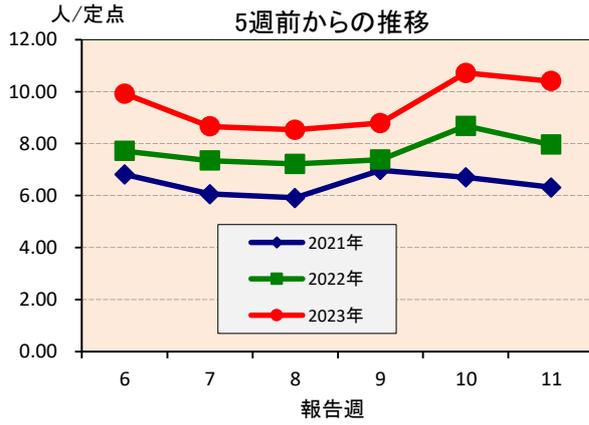
改正のポイント

- 以下の内容を指針に反映。
 - 1 基本的な考え方、方向性
 - ・ 健康危機に備えた計画的な体制の整備
 - ・ 広域的な感染症のまん延に対応するための国、広域自治体としての都道府県、保健所設置自治体の役割
 - 2 保健所の健康危機管理体制
 - ・ 健康危機対処計画の策定
 - ・ 統括保健師等総合的なマネジメントを担う保健師の配置
 - ・ 広域的な感染症のまん延に備えた人材（IHEAT、自治体間の職員の応援派遣）の活用のための取組
 - 3 地方衛生研究所の健康危機管理体制
 - ・ 健康危機対処計画の策定
 - ・ 地方衛生研究所において必要な体制や求められる役割 等
- 令和5年3月に告示、同年4月1日から適用予定。

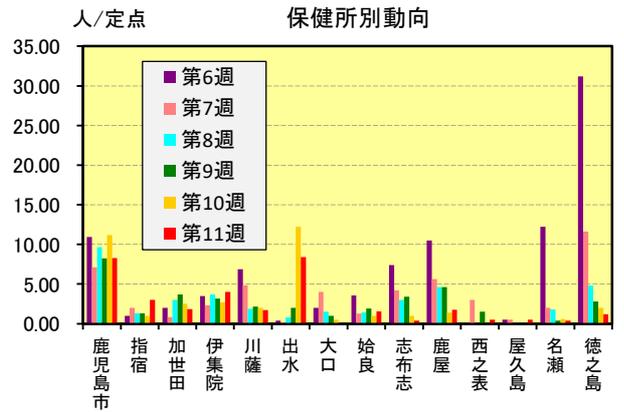
（資料：厚生労働省）

☆上位3疾患の5週間前からの定点あたり報告数及び保健所別動向

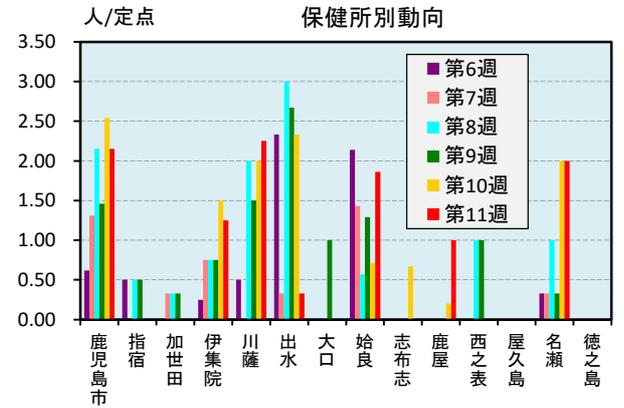
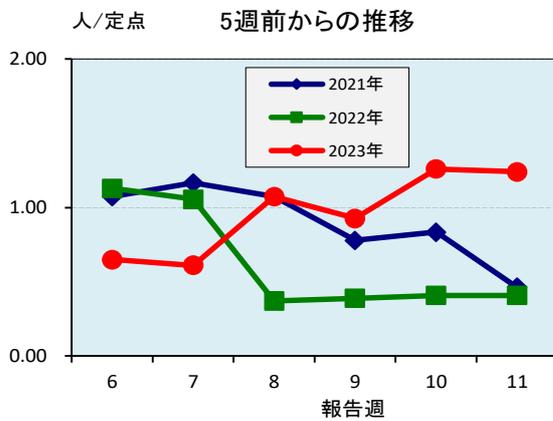
(1) 感染性胃腸炎



(2) インフルエンザ

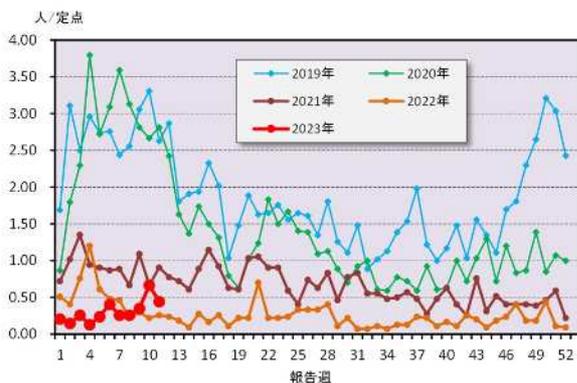


(3) RS ウイルス感染症



☆注目される感染症の発生状況

★ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（鹿児島県）



★ 咽頭結膜熱（鹿児島県）



☆定点報告疾患の発生状況

2023年	(報告週)	第11週		
定点種別	定点報告疾患	報告数	定点当り	累積報告数 (2023年)
インフルエンザ定点 (内科・小児科定点)	インフルエンザ	332	3.61	6,896
小児科定点	○ 咽頭結膜熱	21	0.39	222
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	24	0.44	182
	感染性胃腸炎	562	10.41	4,956
	○ 水痘	3	0.06	36
	○ 手足口病	4	0.07	131
	伝染性紅斑	1	0.02	11
	突発性発しん	16	0.30	168
	ヘルパンギーナ	3	0.06	81
	○ 流行性耳下腺炎	4	0.07	26
眼科定点	RSウイルス感染症	67	1.24	467
	急性出血性結膜炎	-	-	2
基幹定点	流行性角結膜炎	1	0.14	27
	細菌性髄膜炎(真菌性を含む)	-	-	-
	無菌性髄膜炎	-	-	-
	マイコプラズマ肺炎	-	-	-
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)	-	-	-
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	0.00	-
報告数合計		1,038	0	13,205

○印は前週比増

☆5週間前からの疾患別報告数・定点当たり報告数

		5週前 (2023年6週)	4週前 (2023年7週)	3週前 (2023年8週)	2週前 (2023年9週)	1週前 (2023年10週)	今週 (2023年11週)
インフルエンザ	報告数	720	387	387	355	407	332
	定点当り	7.83	4.21	4.21	3.86	4.42	3.61
RSウイルス感染症	報告数	35	33	58	50	68	67
	定点当り	0.65	0.61	1.07	0.93	1.26	1.24
咽頭結膜熱	報告数	26	31	31	12	17	21
	定点当り	0.48	0.57	0.57	0.22	0.31	0.39
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	22	14	14	19	36	24
	定点当り	0.41	0.26	0.26	0.35	0.67	0.44
感染性胃腸炎	報告数	536	468	461	475	579	562
	定点当り	9.93	8.67	8.54	8.80	10.72	10.41
水痘	報告数	-	1	6	1	2	3
	定点当り	-	0.02	0.11	0.02	0.04	0.06
手足口病	報告数	15	9	4	6	2	4
	定点当り	0.28	0.17	0.07	0.11	0.04	0.07
伝染性紅斑	報告数	1	1	1	-	2	1
	定点当り	0.02	0.02	0.02	-	0.04	0.02
突発性発しん	報告数	19	16	13	14	18	16
	定点当り	0.35	0.30	0.24	0.26	0.33	0.30
ヘルパンギーナ	報告数	6	6	10	4	7	3
	定点当り	0.11	0.11	0.19	0.07	0.13	0.06
流行性耳下腺炎	報告数	-	3	4	2	1	4
	定点当り	-	0.06	0.07	0.04	0.02	0.07
急性出血性結膜炎	報告数	2	-	-	-	-	-
	定点当り	0.29	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	報告数	1	3	8	1	5	1
	定点当り	0.14	0.43	1.14	0.14	0.71	0.14
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)	報告数	-	-	-	-	-	-
	定点当り	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	報告数	-	-	-	-	-	-
	定点当り	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	報告数	-	-	-	-	-	-
	定点当り	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(オウム病は除く)	報告数	-	-	-	-	-	-
	定点当り	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数	-	-	-	-	-	-
	定点当り	-	-	-	-	-	-

